

ふじさわSDGs共創パートナー取組実績報告書

2024年度の取組実績を次のとおり報告します。

報告日

2025年5月30日

企業・団体名



公益財団法人

藤沢市みらい創造財団



No	具体的な取組内容	2025年度の取組予定
1	【笑顔あふれるみらいを応援します。】 (「こどもまんなかアクション」への取組) ・こども家庭庁による「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行い、財団全体として様々な事業に取り組みこととしました。 ・学生服リユースショップと連携した回収ボックス設置において、回収ボックスに貼付するイラストを児童クラブのこどもたちに書いてもらうことで、こどもや保護者にも関心を持っていただけた。 (SDGsの普及、理解度促進及び実践) ・青少年を対象として、ブルーカーボン万華鏡づくりなど広く浅い単発の事業と専門家を講師としたより深い理解に取り組む継続的事業の両輪でSDGsの理解促進と実践に引き続き取り組みました。また多様な性への理解を促進するため、LGBTQに関する事業を実施しました。 ・青少年施設を会場として、食品の無料配布や無料の料理教室(子ども食堂)などフードロスや貧困対策への取組を行いました。 ・少年の森において、間伐材を利用した木工作事業や薪ストーブの設置などの資源再活用、場内に生育している苗の参加型植樹会を継続して行いました。 ・青少年会館において、パソコン開放による学習支援や学校長期休業期間における学習支援&子ども食堂事業を継続して実施しました。 ・青少年会館では、サードプレイス事業として学校に行きづらい青少年を対象に居場所の提供を行いました。また、バックキャスト方式を取り入れながら、こどもたちが高齢者や障がい者とのふれあいを通して、社会の一員として自ら何ができるかを考える場を社会福祉協議会と連携をして提供しました。 ・内閣府「ムーショット型研究開発制度」を活用し、次代を担う子どもたちに「生分解開始スイッチ機能を有する海洋分解性プラスチックの研究開発」に関して施設見学(JAMSTEC海洋研究開発機構横須賀本部)やグループワークを行い、日本の科学技術を担うきっかけ作りの場を提供しました。連携:内閣府 JAMSTEC海洋研究開発機構 他 ・放課後児童クラブにおいては、室内の整理整頓など環境整備を行うとともに、保護者への対応や児童へ特性に合わせた対応など、誰もが安心して過ごせるよう支援を行いました。 ・児童クラブ施設内外において、野菜の栽培や自然物を利用しての工作物の製作、ピーチクリーンなどの体験活動を行い、児童がSDGsの取組に興味を持ち、自然に親しみながら成長していくことの促しができました。また、ごみの分別や水使用など資源の大切さについて伝えていく活動を行いました。 ・市と協働の夏休みの児童の居場所事業である「みらいサマースクール」において、専門家を講師としたSDGs全体に関する理解促進を図るカリキュラムを実施しました。 (誰もがスポーツや芸術・文化に触れる機会の提供と環境整備) ・地域や関連団体・ボランティア等と連携を図り、各世代を対象としたスポーツ教室やイベント等を年間を通じて実施しました。 ・地域で活躍するスポーツボランティアやボランティアリーダーを養成するための講習会を開催しました。また、インクルーシブスポーツを通じて共生社会の実現への理解を深めるために体験会を実施しました。 ・運動施設においては、夏期の熱中症等への対応指針を定め、ポスター掲示で周知するなど安全安心な施設運営に取り組みしました。 ・青少年を対象とした体験活動やスポーツ事業参加に就学援助世帯の減額制度を引き続き実施しました。 ・公演事業において、障がいのある方やこども・若者の割引(2割引)を実施し、障がいの有無や年代、家族状況に関わらず参加できる機会を提供することができました。 ・第25回藤沢市民オペラ「魔笛」において、文化庁補助金事業に採択されたことで、こども無料招待により多くの親子に観劇機会を提供しました。 ・本財団芸術文化活動団体助成金交付に係る審査項目に「障がい者と芸術文化をつなぐ取組」を加えることにより、障がいの者の芸術文化体験の機会の拡大に取り組みしました。	(「こどもまんなかアクション」への取組) ・「こどもまんなか応援サポーター」として、財団全体として様々な事業に取り組みます。 (SDGsの普及、理解度促進及び実践) ・青少年を対象として、広く浅い単発の事業とより深い理解に取り組む継続的事業の両輪でSDGsの理解促進と実践に継続して取り組みます。また、多様な性の理解促進のためLGBTQに関する事業を継続します。 ・「もったいない」を合言葉にして、こどもたちが主体的に行うフードロスや貧困への取組を継続して実施します。 ・藤沢市農福連携事業及び農林水産省の政府備蓄米の交付を受けこども食堂事業を継続して実施します。 ・学校長期休業期間における学習支援とこども食堂事業を継続します。 ・青少年ボランティアステーション、チームFUJISAWA2020、ユースワーク藤沢を活用し、誰もが様々な体験ができる機会の提供や就労支援に取り組みます。 ・児童クラブ周辺の環境を活かした自然体験活動等事業を、SDGsの取組目標である豊かな自然をみらいにつなぐ取組として行います。 ・こどもの最善の利益を優先とした指導内容となるように指導指針の見直しを図り、保護者・こどもが安心して利用できるように努めます。 ・市と協働の夏休みの児童の居場所事業である「みらいサマースクール」においてSDGsに関するカリキュラムを設け、理解促進を図ります。 (誰もがスポーツや芸術・文化に触れる機会の提供と環境整備) ・地域や関連団体・ボランティア等と連携を図り、各世代を対象としたスポーツ教室やイベント等を実施します。 ・共生社会の実現を図るため、インクルーシブスポーツの体験機会やスポーツボランティアの活動機会を提供します。 ・地域団体・関連団体と共に、こどもから高齢者、障がいのある方など誰もが音楽や演劇、芸術作品などを鑑賞・体験できる機会を提供します。 ・青少年を対象とした体験活動やスポーツ事業参加に就学援助世帯の減額制度を継続するとともに、拡充を目指します。 ・市民会館等のホールで実施する主催事業については、車いす等の障がい者割引(2割引)を実施するほか、全ての事業において、障がいのある方も鑑賞できるよう合理的配慮を行います。 ・主催公演において、文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」の補助金を活用し、18歳以下のこども達の無料招待を実施します。

2	【全ての職員が安全で安心して働くことのできる職場環境をつくりまします。】 1 組織全体の労働安全衛生向上の取組 ・財団全体の安全衛生委員会である総括管理委員会の取組として、職員の健康維持、向上を目的に職員全体を対象としたウォーキング研修をオンラインで開催しました。この研修で得た知識を実践するため、職員有志により「ふじざわ歩くプロジェクト」のグループ歩数チャレンジへ参加し、6位入賞をすることができました。また、事務椅子に座ったままできる簡単な運動「ちょこトレ」の新たな動画を作成・配信し、執務中における健康維持を促しました。 ・産業医を講師とした「食事と健康」「健康診断の見方」に関する研修を行い、各職員の健康に対する意識高揚に努めました。 ・毎朝、各職場においてラジオ体操を継続実施しました。 2 相談体制の充実 ・産業医による健康全般についての定期的相談会を年4回設定するとともに、いつでも相談できる外部相談機関の相談チャンネルにLINEアプリでの利用を加え、相談しやすい体制整備を行いました。 ・児童クラブにおいてブロックミーティングを試行実施し、児童クラブ長の孤立化防止及び話しやすい職場環境づくりに努めました。 3 職員間の良好な関係づくり ・全ての部署の全ての職員の協力のもと、風通しが良く、相談しやすい職場環境づくりを進めました。 ・他部署の事業等へ従事する事業課間研修により、部署を越えた人間関係づくりを促進しました。	1 組織全体の労働安全衛生向上の取組 ・財団全体の労働安全衛生向上を目的に設置された目的別・組織別組織において、それぞれの特性に応じた研修企画や情報提供等を継続して行います。 ・毎朝、各職場においてラジオ体操を継続実施します。 2 相談体制の充実 ・産業医による健康全般についての定期的相談及びいつでも相談できる外部相談機関の複数の相談チャンネルを継続して設置するとともに、更なる相談しやすい体制を検討します。 ・前年度試行実施したブロックミーティングを全ブロックに拡大し、児童クラブ長の孤立化防止やブロック内での相談しやすい環境づくりに取り組みます。 3 職員間の良好な関係づくり ・全ての職員が積極的なコミュニケーションを図り、ハラスメントが無く、風通しが良い、心理的安全性の高い職場であることを継続させます。 ・職員会議にアイスブレイクタイムを取り入れ、普段接することの少ない職員間の交流を深めます。
3	【資源の節約など、地球環境に配慮した取り組みを進めます。】 ・リサイクルペーパーの購入、両面印刷の徹底、不用紙の裏面使用、カラー印刷の必要性の検討の徹底を図り、紙やインクの使用量の更なる削減を図りました。 ・少年の森においては青少年を対象に、「稲作体験」や「ごしょみ産アウトドアクッキング」を実施し、農作物のライフサイクルや伝承文化、地産地消について学ぶ機会を提供しました。また、「森のお手入れ」「ツリークライミング」事業を実施し、貴重な森林の維持について啓発しました。 ・新設児童クラブ及びプール施設改修時において、照明をLED化し、電気使用量の削減を図りました。 ・放課後児童クラブの新規申請に電子申請を導入して申請者の利便性の向上とともに、業務の効率化を図りました。 ・財団内会議はオンラインを標準として、移動時間の削減等業務の効率化と印刷物の削減を進めました。 ・日ごとの天候等に合わせた執務室等の照度調整、こまめな消灯や冷暖房設定調整、トイレ照明への人感センサーやシャワーの節水装置の設置、グリーンカーテンの設置などにより、引き続きエネルギーの節減に取り組みしました。 ・第15回湘南藤沢市民マラソン2025においても、自宅から会場までの清掃活動を参加者に呼びかけ、実施しました。 ・市民及び保育園と連携して、エコキャップ運動に参加しました。 ・各職場において定期的な施設周辺清掃活動や職場内一斉清掃を継続して実施しました。 ・藤沢市の「ひと涼み処」事業に協力し、施設ロビーの提供を行いました。 (再掲)当財団と同じくSDGs共創パートナー宣言を行っている学生服リユースショップと連携し、多くの市民が利用する財団管理施設設計6か所での回収の協力を行い、資源の有効活用等への支援を行いました。 (再掲)・内閣府「ムーンショット型研究開発制度」を活用し、次代を担う子どもたちに「生分解開始スイッチ機能を有する海洋分解性プラスチックの研究開発」に関して施設見学(JAMSTEC海洋研究開発機構横須賀本部)やグループワークを行い、日本の科学技術を担うきっかけ作りの場を提供しました。連携:内閣府 JAMSTEC海洋研究開発機構 他	・リサイクルペーパーの購入、両面印刷の徹底、不用紙の裏面使用、カラー印刷の必要性の検討の徹底を図り、紙やインクの使用量の更なる削減を図ります。また、スポーツ用具のリサイクルにも取り組みます。 ・対面の会議において配布する紙資料を削減するため、会議用PCの導入を検討します。 ・業務の更なるICT化やオンライン会議の標準化により、業務の効率化と資源の節減を進めます。 ・執務室等の照度調整やこまめな消灯、トイレ照明への人感センサー設置、シャワーの節水装置などにより、節電・節水の取組を継続します。 ・日ごとの状況に合わせて、こまめに冷暖房の設定を調節し、エネルギーの節約に努めます。 ・美化アワーを新たに設け、4S(整理・整頓・清掃・清潔)活動を推進することで、職場の安全意識の向上と啓発活動に取り組みます。 ・第16回湘南藤沢市民マラソン2026においても、1万人のクリーン活動を継続実施します。 ・各職場における定期的な施設周辺清掃活動を継続するとともに、地域の清掃活動等にも参加します。 ・藤沢市の「ひと涼み処」事業に協力し、施設ロビーの提供を行います。 ・新たな事業として自然体験フェスティバルを開催し資源等を学ぶ場を提供します。 ・当財団と同じくSDGs共創パートナー宣言を行っている学生服リユースショップと連携し、引き続き多くの市民が利用する財団管理施設設計6か所での回収の協力を行い、資源の有効活用等への支援を行います。